

心理学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
実験心理学特論Ⅰ	心理学・脳科学からみる知覚・認知	2	河地 庸介	前期 水曜日 4 講時	実験心理学特論
実験心理学特論Ⅱ	ストレスと化粧の社会生理心理学	2	阿部 恒之	前期 水曜日 1 講時	実験心理学特論
実験心理学特論Ⅲ	神経・生理心理学	2	坂井 信之	後期 水曜日 3 講時	応用心理学特論
実験心理学特論Ⅳ	心理統計法	2	倉元 直樹	前期 月曜日 2 講時	心理学特論Ⅰ
社会心理学特論Ⅰ	犯罪・非行の社会心理学	2	荒井 崇史	前期 金曜日 3 講時	社会心理学特論
社会心理学特論Ⅱ	文化と人間行動	2	辻本 昌弘	後期 金曜日 2 講時	社会心理学特論
心理学特論Ⅰ	ウェルビーイングの心理学とその応用	2	Wiwattanapantuwong, Juthatip	後期 木曜日 3 講時	心理学特論Ⅱ
心理学総合演習Ⅰ	特選題目研究Ⅰ	2	坂井 信之 (阿部・辻本・大森・荒井・河地)	前期 金曜日 5 講時	心理学総合演習Ⅰ
心理学総合演習Ⅱ	特選題目研究Ⅱ	2	坂井 信之 (阿部・辻本・大森・荒井・河地)	後期 金曜日 5 講時	心理学総合演習Ⅱ
実験心理学研究演習Ⅰ	認知脳科学の最前線と実際	2	河地 庸介	後期 水曜日 2 講時	心理学研究演習Ⅰ
実験心理学研究演習Ⅱ	感情心理学の展開	2	阿部 恒之	後期 水曜日 1 講時	心理学研究演習Ⅱ
実験心理学研究演習Ⅲ	応用心理学（食行動）の文献研究	2	坂井 信之	前期 水曜日 3 講時	心理学研究演習Ⅲ
実験心理学研究演習Ⅳ	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉元 直樹	後期 月曜日 2 講時	心理学研究演習Ⅵ
社会心理学研究演習Ⅰ	犯罪・非行研究の展開	2	荒井 崇史	後期 木曜日 2 講時	心理学研究演習Ⅳ
社会心理学研究演習Ⅱ	コミュニティと文化	2	辻本 昌弘	前期 金曜日 2 講時	心理学研究演習Ⅴ
心理学研究実習Ⅰ	心理学研究法	2	河地 庸介 (阿部・坂井・辻本・荒井・齋藤)	前期 火曜日 3 講時・前期 火曜日 4 講時	心理学研究実習Ⅰ
心理学研究実習Ⅱ	心理学基礎実験	2	河地 庸介 (阿部・坂井・辻本・荒井・齋藤)	後期 火曜日 3 講時・後期 火曜日 4 講時	心理学研究実習Ⅱ

科目名：実験心理学特論 I / Experimental Psychology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LM13409 科目ナンバリング：LIH-PSY601J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：実験心理学特論】

1. 授業題目：心理学・脳科学からみる知覚・認知

2. Course Title (授業題目)：Psychology and Brain Science on Perception and Cognition

3. 授業の目的と概要：人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活している。本講義では、このような情報のやりとりをする「こころ」、その「こころ」を実現する脳について、認知心理学のみならず、情報科学や脳科学等との密接な関連性を意識しながら理解することを目指す。適宜、錯覚等の心的現象のデモンストレーションや心理学実験の実体験に加えて、最新の脳科学的知見・話題をも織り交ぜながら講義を進めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We consciously or unconsciously perceive various information from internal and external environment, choose an adaptive behavior based on perceived information, and interact with internal and external environment. In this course, we will aim at comprehensively understanding adaptive mental functions such as sensation, perception, and cognition in terms of brain science, information science as well as cognitive psychology. This course will include many demonstrations of psychological phenomenon and experiments.

5. 学習の到達目標：講義で紹介する具体的な実験例や理論・モデルを学ぶことで、種々の心的現象を認知心理学的観点から考察するとともに、マスメディア等に溢れる心理学・脳科学に関する情報を適切に評価できる力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn experimental measurements, actual experiments, theory and model in psychology and brain science to improve the ability to analyze psychological phenomena from the point of cognitive psychology and to understand and evaluate psychological and brain science topics from the media.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、感染状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. 脳科学と知覚・認知心理学の成り立ち
2. 心理物理学的測定法と種々の測定法とニューロイメージング
3. 世界を感じるための「こころ」の基本特性
4. ものを「見る」機能（1）：色・運動・奥行き等
5. ものを「見る」機能（2）：形・物体認知・群化等
6. 視覚情報処理経路
7. 音を「聴く」機能
7. 聴覚情報処理経路
8. 様々な感覚情報を組み合わせる機能：マルチモーダル知覚
9. 注意と Attentional Brain Network
10. 注意とその障害
11. 様々な記憶とその限界
12. 様々な記憶とその障害
13. 心的イメージと感覚情報処理
14. 問題解決と推論：アルゴリズム・ヒューリスティックス
15. 意思決定

8. 成績評価方法：

試験もしくはレポート（70%）およびコメントシートの提出（30%）をもとに評価する。

9. 教科書および参考書：

必要に応じてプリントもしくはPDF ファイルを配布する。

10. 授業時間外学習：講義内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：実験心理学特論Ⅱ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LM13101 科目ナンバリング：LIH-PSY602J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：実験心理学特論】

1. 授業題目：ストレスと化粧の社会生理心理学
2. Course Title (授業題目)：The social psychophysiology of stress and cosmetic behavior
3. 授業の目的と概要：化粧という日常行為を題材に、具体的な研究例を学び、社会生理心理学的アプローチの理解を深める。

キーワード： コルチゾール・アドレナリン・進化適応の環境・やっかい事・気晴らし・いやし・はげみ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will learn actual psychological studies on cosmetic behavior to deepen their understanding of social psychophysiology.

Key words: cortisol, adrenaline, EEA, hassles, uplifts, healing, encouragement

5. 学習の到達目標：社会生理心理学の重要トピックスを学び、独力で研究を行う力を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this course, students will learn about important topics on social psychophysiology and develop the ability to carry out research on their own.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この講義は一部対面を取り入れながら、基本的には Classroom を用いたハイブリッド方式で行う。
資料提供・小レポートの提出・連絡等は Classroom を通じて行う (クラスコードは xfm07yg)。

授業はテキストに沿って進行するが、状況に応じて内容を変更することがある。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 ストレス研究史・用語の定義
- 3 回目 生理学的基盤 1：交感神経副腎髄質系
- 4 回目 生理学的基盤 2：HPA 系
- 5 回目 生理学的測定法
- 6 回目 生理心理学の研究史
- 7 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 1：生活重大事
- 8 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 2：やっかい事と気晴らし
- 9 回目 化粧の文化史
- 10 回目 謎と研究
- 11 回目 実験室実験
- 12 回目 社会的文脈における実験
- 13 回目 ストレスホルモン分泌を促す心理的要因
- 14 回目 感情調節装置としての化粧
- 15 回目 まとめ

8. 成績評価方法：

期末レポート (30%)、毎回の小レポート (50%)、出席と討議への参加 (20%)。
上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

ストレスと化粧の社会生理心理学 (阿部恒之著、フレグランスジャーナル社) ISBN4-89479-058-0

授業中に講読するので必携のこと。

10. 授業時間外学習：テキストを早い段階で通読して欲しい。毎回小レポートを課すので、それを通じて復習すること。関連する論文を自ら見つけて、学んだ内容を発展的に自習して欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

レポート等、全ての提出物は受講生全員で共有するので、それを前提に作成すること。
コンピュータの持参・使用を認める。

科目名：実験心理学特論Ⅲ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LM23306 科目ナンバリング：LIH-PSY603J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：応用心理学特論】

1. 授業題目：神経・生理心理学
2. Course Title (授業題目)：Neuroscience and Physiological Psychology
3. 授業の目的と概要：この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help students with their understanding about human neuron systems and about neural mechanisms underlying human cognitive functions such as learning, memory and emotion.
5. 学習の到達目標：ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how human cognitive functions evoked by brains.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進捗の予定は以下の通り。

第1回 日常生活を支える脳の仕組み
第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に
第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質
第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚
第5回 脳を測る：電気信号と化学信号
第6回 経験に基づく脳の変化
第7回 人の知情意を司る脳
第8回 ものを見るのは目か脳か？
第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？
第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？
第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？
第12回 お腹が空く理由は？
第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？
第14回 記憶を失った青年の話
第15回 心の病気＝脳の病気
8. 成績評価方法：
定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）
9. 教科書および参考書：
授業中に適宜資料を配布・紹介する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。
なお、復習と次週の予習のため、小レポートへの回答が必須であり、小レポートへの回答は90分程度必要となることを予め理解しておくこと。

科目名：実験心理学特論Ⅳ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) IV

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LM11206 科目ナンバリング：LIH-PSY604J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：心理学特論Ⅰ】

1. 授業題目：心理統計法

2. Course Title (授業題目) : Basic Statistics useful for Psychology

3. 授業の目的と概要：量的データを用いた研究法を念頭に、データ分析に必要な基礎理論を学ぶ。統計的方法の考え方について、基本から理解し、把握する機会とする。講義に必要な数学的事項は高校段階程度までさかのぼって解説する予定である。統計的な分野について初めて触れる方、これまでに何度か受講経験があっても理解が不十分と感じる方を主な対象とする。人文・社会科学の研究を志す方であれば受講者の専攻分野は問わない。なお、主として授業期間の前半にレポートとして課される演習課題に若干の時間が取られることを予想しておいてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This class is designed to learn basic statistical theory necessary for data analysis in quantitative psychology. In order to understand and grasp the concept of statistical methods from the basics, mathematical concepts necessary for lecture will be occasionally explained back to the stage of high school level. This class mainly target those who touched about statistical fields for the first time, and those who feel insufficient in understanding even if we have experiences several times so far. As long as you are interested in research on humanities and social sciences, the lecturer does not care about your major fields. Please expect that some time will be taken for the exercises that will mainly be imposed in the first half of the class period.

5. 学習の到達目標：初等統計学の基礎的概念の習得。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Learning the basic concept of elementary statistics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1コマ)

2. 記述統計学 (統計とは何か、変数とデータ、尺度の水準、度数表、クロス集計表、連続変数、離散変数、多変量データ、連続データの度数表、ヒストグラム、累積度数折線、数値による分布の要約 [モーメント系、分位数系]、2つの変数の関係 [相関係数、回帰]) (6コマ)

3. 調査の基礎理論 (古典的テスト理論 [妥当性と信頼性、信頼性係数の推定と向上]) (2コマ)

4. 推測統計学 (確率、条件付確率、確率分布、二項分布、正規分布、確率密度と確率、記述統計学と確率モデル、統計的仮説検定、帰無仮説と対立仮説、検定の手続き、有意水準と検出力、連続分布と離散分布、微分・積分、期待値、標本平均の期待値とその分散、標本分散の期待値、正規分布、標本平均の分布、様々な手法から実験計画へ [期待度数と実測度数、分割表の独立性、相関係数の検定、対応があるデータの平均値、符号検定]、分散分析の基礎) (6コマ)

8. 成績評価方法：

期末考査 [30%程度]・レポート [30%程度]・出席状況 [40%程度]

9. 教科書および参考書：

教科書：自作プリント (Google Classroom、ISTU にアップロードする予定)

参考書：中村知靖、松井仁、前田忠彦共著、2006、『心理統計法への招待』、サイエンス社

10. 授業時間外学習：8回のレポート課題を課す予定。授業時間外に予習、復習を奨励する。Google Classroom、ISTU 教材の利用も可能とする予定。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：社会心理学特論 I / Social Psychology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LM15305 科目ナンバリング：LIH-PSY605J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：社会心理学特論】

1. 授業題目：犯罪・非行の社会心理学

2. Course Title (授業題目)：Social Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：本授業は、日常で発生する反社会的行為（犯罪や非行）を社会心理学的な視点から捉えることで、そうした反社会的行為を理解するための知識を習得することを目的とする。授業は基本的な知識を提供する講義形式に加えて、必要に応じて受講生同士でディスカッションを行う形式で進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to acquire knowledge on each topic by understanding the antisocial behavior (crime and delinquency) that occurs in daily life from a social psychological perspective. In this course, in addition to lectures providing basic knowledge, discussions will be held between students as needed.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪や非行の原因を社会心理学の視点から理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to...

1. Understand the systems and laws in the field of justice and crime, and the activities and ethics of each organization.
2. Understand the causes of crime and delinquency from a social psychology perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は原則対面で授業を実施します。ただし、社会的状況によってやむを得ない場合にはオンラインで実施することもあります。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

授業内容とスケジュールは以下の通りですが、進度によって変更する場合があります。

1. 全体ガイダンス：犯罪・非行と社会心理学
2. 刑事司法制度の詳細：成人
3. 刑事司法制度の詳細：未成年
4. 犯罪統計を活用した犯罪研究
5. 犯罪・非行の原因：生物学的要因 (1)
6. 犯罪・非行の原因：生物学的要因 (2)
7. 犯罪・非行の原因：心理学的要因 (1)
8. 犯罪・非行の原因：心理学的要因 (2)
9. 犯罪・非行の原因：社会学的要因 (1)
10. 犯罪・非行の原因：社会学的要因 (2)
11. 犯罪機械論
12. 司法・犯罪領域の心理学的アセスメントと支援
13. 法と社会心理学
14. 犯罪捜査と社会心理学
15. 本授業の総括と知識確認

8. 成績評価方法：

期末試験・レポート 60%

受講態度 40% (授業内課題 20%, その他 20%)

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。なお、授業内容を予習復習することは当然として、授業時間外学習として複数の課題（レポート等）を課す。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学特論Ⅱ／ Social Psychology(Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LM25206 科目ナンバリング：LIH-PSY606J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：社会心理学特論】

1. 授業題目：文化と人間行動
2. Course Title (授業題目)：Culture and Human Behavior
3. 授業の目的と概要：文化やコミュニティに関する理論や研究例をとりあげ、研究の系譜と主要な理論モデル、社会生態環境と適応、文化変容の諸相、現代社会における多文化主義などについて解説していく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn about diversity of cultures, cultural psychological theories, and acculturation processes.
5. 学習の到達目標：文化と社会に関する心理学、および関連研究領域の主要な理論と研究例を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand theories and research of cultural psychology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
オンラインにより授業をおこなう
 1. 文化的存在としての人間
 2. 人類の多様性と普遍性
 3. 文化、進化、学習
 4. 文化研究の系譜
 5. 心理プロセスの文化差
 6. 文化差の理論モデル
 7. 人類の進化と適応
 8. 社会生態環境と文化
 9. 近年の理論と論争
 10. 異文化接触の類型と事例
 11. 文化変容の理論モデル
 12. 文化変容と対人関係
 13. 国民国家とエスニシティ
 14. 多文化主義の理念と実践
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
小テスト (50%)， 期末レポート (50%)
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を変更する可能性がある
るので、初回ガイダンスや通知を確認するようにしてください。
10. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を
復習しておくことが必要です。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：心理学特論 I / Psychology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：Wiwattanapantuwong, Juthatip

コード：LM24301 科目ナンバリング：LIH-PSY607J 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：心理学特論 II】

1. 授業題目：ウェルビーイングの心理学とその応用
2. Course Title (授業題目)：The Psychology of Well-being and its application
3. 授業の目的と概要：1946 年の世界保健機関 (WHO) 憲章の草案の中で、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態 (well-being) であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されている (厚生労働省)。本講義では、「ウェルビーイング」の概念を紹介し、様々な観点を紹介する。講義の後半は自然災害や感染症が広まった「非常時」のウェルビーイングの研究について論じる。また、様々な研究がウェルビーイングや現在注目される話題とどのようにかわるかを考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The constitution of the World Health Organization (WHO) in 1946 rose the term of 'Health' as a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. This course will introduce you to the world of well-being as it has been discussed in the various viewpoints. The second half of this course may include the study of 'well-being during the mass crisis' such as, natural disaster and pandemic diseases as a part of my current research studies. During the class students can discuss how their research related to the concept of well-being (or others current topics).
5. 学習の到達目標：1. 受講者は、ウェルビーイングの定義、測定方法及び、他の心理学概念との関連を説明することができる。
2. 受講者は、自然災害やコロナ感染症などの「非常時」と「平常時」のウェルビーイングの変化を見分けることができる。
3. 受講者は、ウェルビーイングの概要を考察し、現在注目されている問題との関連を把握し、ソリューションを提案することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students can explain the definition of well-being, the way to measure well-being, and its relationship with other psychological factors.
2. Students can identify the change of well-being between the 'usual time' and 'unusual time' such as, natural disaster and COVID-19.
3. Students can discuss and apply the concept of well-being to suggest the solution to solve current issues in the national and global ways.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この講義は Zoom を介してタイと日本をつなぐオンライン講義である。授業に関する各種情報は文学部・文学研究科の HP 等でお知らせするので、各自確認いただきたい。
 1. ウェルビーイングの定義とその使い方
 2. 異文化・違う世代のウェルビーイングとその測定法 (1)
 3. 異文化・違う世代のウェルビーイングとその測定法 (2)
 4. 異文化・違う世代のウェルビーイングとその測定法 (3) と討論
 5. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 (1)
 6. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 (2)
 7. ウェルビーイングと SDGs
 8. 非常時のウェルビーイング (1)
 9. 非常時のウェルビーイング (2)
 10. 非常時のウェルビーイング (3)
 11. 非常時のウェルビーイング (4) と討論
 12. 非常時のウェルビーイング (5) と討論
 13. 研究紹介：The Well for Life Project (1)
 14. 研究紹介：The Well for Life Project (2)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
レポート 50%
受講態度 50% (授業内での議論への参加度)
※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。
9. 教科書および参考書：
website of The Stanford Well for Life Project
<https://med.stanford.edu/wellforlife.html>
10. 授業時間外学習：各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業

内容と関連する文献を読んでおくこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：心理学総合演習Ⅰ / Psychology(Integration Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：坂井 信之（阿部・辻本・大森・荒井・河地）

コード：LM15505 科目ナンバリング：LIH-PSY608J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：心理学総合演習Ⅰ】

1. 授業題目：特選題目研究Ⅰ
2. Course Title (授業題目)：Research on Special TopicsⅠ
3. 授業の目的と概要：各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。
基本的に、1回の演習で2名がそれぞれ30分程度のプレゼンテーションを行う。
発表レジュメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。
質疑討論はそれぞれの発表につき15分程度行う。
この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫すること。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Every student make a presentation and all students discuss it.
5. 学習の到達目標：各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand own area of psychology while discussing with each other.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
このクラスコードは 4fgxqxd です。
Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1回目 ガイダンス
2回目 発表と討議 (1組目)
3回目 発表と討議 (2組目)
4回目 発表と討議 (3組目)
5回目 発表と討議 (4組目)
6回目 発表と討議 (5組目)
7回目 発表と討議 (6組目)
8回目 発表と討議 (7組目)
9回目 発表と討議 (8組目)
10回目 発表と討議 (9組目)
11回目 発表と討議 (10組目)
12回目 発表と討議 (11組目)
13回目 発表と討議 (12組目)
14回目 発表と討議 (13組目)
15回目 まとめ
8. 成績評価方法：
発表 (40%)、平常点 (30%)、討論への参加 (30%)
9. 教科書および参考書：
特に使用しない。
10. 授業時間外学習：各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジュメと投影資料を準備すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。
心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に2回以上の発表を行うこと。

科目名：心理学総合演習Ⅱ／ Psychology(Integration Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：坂井 信之（阿部・辻本・大森・荒井・河地）

コード：LM25505 科目ナンバリング：LIH-PSY609J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：心理学総合演習Ⅱ】

1. 授業題目：特選題目研究 II
2. Course Title (授業題目)：Research on Special Topics II
3. 授業の目的と概要：各自の研究テーマについて順次報告し，受講者全員で討論を行う。
基本的に，1 回の演習で 2 名がそれぞれ 30 分程度のプレゼンテーションを行う。
発表レジュメもあらかじめ作成し，出席者全員に配布する。
質疑討論はそれぞれの発表につき 15 分程度行う。
この演習の目的は，修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく，説得力のある発表をするように努め，そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Every student make a presentation and all students discuss it.
5. 学習の到達目標：各自の研究活動に基づく発表を通じて，心理学の各領域の研究についての理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand own area of psychology while discussing with each other.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
この授業は，Google Meet を用いたライブ型の遠隔授業を基本として実施する。

1 回目 ガイダンス
2 回目 発表と討議 (1 組目)
3 回目 発表と討議 (2 組目)
4 回目 発表と討議 (3 組目)
5 回目 発表と討議 (4 組目)
6 回目 発表と討議 (5 組目)
7 回目 発表と討議 (6 組目)
8 回目 発表と討議 (7 組目)
9 回目 発表と討議 (8 組目)
10 回目 発表と討議 (9 組目)
11 回目 発表と討議 (10 組目)
12 回目 発表と討議 (11 組目)
13 回目 発表と討議 (12 組目)
14 回目 発表と討議 (13 組目)
15 回目 まとめ
8. 成績評価方法：
発表 (40%)，平常点 (30%)，討論への参加 (30%)
9. 教科書および参考書：
特に使用しない。
10. 授業時間外学習：各自，プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し，その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ，レジュメと投影資料を準備すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。
心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し，当該年度に 2 回以上の発表を行うこと。

科目名：実験心理学研究演習 I / Experimental Psychology(Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LM23214 科目ナンバリング：LIH-PSY610J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：心理学研究演習 I】

1. 授業題目：認知脳科学の最前線と実際

2. Course Title (授業題目) : The Cutting Edge of Cognitive Brain Science

3. 授業の目的と概要：本演習では、最新の実験心理学または脳科学（ニューロイメージング）研究論文を取り上げ、①研究背景から研究仮説の導出、②仮説検証のための研究方法の選択、③適切なデータ処理、④研究仮説と結果との違いに基づいて述べられる考察の理解、に着目して話題提供・討論を行う。さらには、取り上げた研究の新規性についても討論を行う。演習で扱うテーマは知覚・認知・感性が基本となる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this seminar, we will read recent papers from experimental psychology and brain science (neuroimaging) and discuss them with the focus as follows: 1) the way to form a research hypothesis, 2) the selection of research methods to test a hypothesis, 3) sound data processing and analysis, 4) discussion based on the difference between hypothesis and results, 5) the novelty of the topic. Especially, we will mainly explore the topic of perception, cognition and Kansei.

5. 学習の到達目標：①自分自身の問題意識や関心に基づいて、研究論文を選び出し、必要な情報を読み取ることができることを目指す。

②仮説検証方法の妥当性を評価できるようになること

③先行研究との比較の中で、当該研究の意義・新規性を評価できるようになること。

④新たな研究課題を見つけることができるようになること。

⑤研究の主観的・社会的意義について意識できるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of this course are to help students 1) select a research topic and paper based on their interests and read out information they need, 2) evaluate the validity of hypothesis testing methods, 3) evaluate the novelty and significance of research, 4) find new research questions, and 5) understand the subjective and social significance of research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、感染状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

1. ガイダンス（演習の進め方）

2. 話題提供・解説・討論

3. 話題提供・解説・討論

4. 話題提供・解説・討論

5. 話題提供・解説・討論

6. 話題提供・解説・討論

7. 話題提供・解説・討論

8. 話題提供・解説・討論

9. 話題提供・解説・討論

10. 話題提供・解説・討論

11. 話題提供・解説・討論

12. 話題提供・解説・討論

13. 話題提供・解説・討論

14. 話題提供・解説・討論

15. 話題提供・解説・討論

8. 成績評価方法：

出席(10%)、発表(40%)、討論への参加(50%)をもとに評価する。

9. 教科書および参考書：

授業で用いる論文について指示する。もしくは PDF ファイルの配布を行う。

10. 授業時間外学習：授業内で扱う研究論文を通読しておくことが必要である。適宜、授業内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：実験心理学研究演習Ⅱ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LM23101 科目ナンバリング：LIH-PSY611J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：心理学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：感情心理学の展開
2. Course Title (授業題目) : Development of emotion science
3. 授業の目的と概要：講義と発表・議論を繰り返し、差別問題に感情がどのように関わっているか、基礎研究と社会問題がいかに密接なつながりを持っているかを理解する。この過程を通じて、感情心理学の展開を学ぶ。

キーワード：基本感情、道徳基盤理論、差別、身体性、システム1・2

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This class consists of lecture and students' presentation/discussion to deepen understanding relationship between discrimination problems and emotions; basic researches and social problems. Students are expected to learn the development of the emotion science through this process.

Key words: basic emotions, moral foundations theory, discrimination, embodiment, system 1/2

5. 学習の到達目標：感情研究の展開を社会的・歴史的な観点から考えることができるようになる。また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students see the development of emotion science from a social/historical point of view, and improve presentation skill through active learning.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。

資料提供・発表資料の提出・連絡などはClassroomを通じて行う（クラスコードは f5jhvi4）。

なお、感染状況によっては一部遠隔授業に切り替えるが、この場合も Classroom を活用する。

具体的には以下の通り。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 基本感情講義・基本感情の資料提供
- 3回目 心理学の見取り図講義
- 4回目 発表1：基本感情
- 5回目 発表2：基本感情 道徳基盤の資料提供
- 6回目 道徳基盤理論講義
- 7回目 発表3：道徳基盤理論
- 8回目 発表4：道徳基盤理論 コロナ問題資料提供
- 9回目 コロナ問題の講義
- 10回目 発表5：コロナ問題
- 11回目 発表6：コロナ問題
- 12回目 文献検索に関する講義
- 12回目 文献検索による期末レポートテーマ検討
- 13回目 各自の期末レポートテーマ研究
- 14回目 発表7：期末レポート
- 15回目 発表8：期末レポート

8. 成績評価方法：

期末レポート（20%）、発表資料の提出と発表（60%）、出席と討議への参加（20%）

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料は Classroom 経由で配布する。大学アドレスへのメールを頻繁に確認すること。

10. 授業時間外学習：英文を中心とした論文を読み、要約し、プレゼン資料をまとめ、授業中に発表してもらうので、授業準備には相応の手間がかかる。しっかりと準備して授業に臨んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

全ての提出物（レポート・発表資料等）は受講生全員で共有するので、それを前提に作成すること。

発表は自分自身のコンピュータを使って、パワーポイントの資料を投影する。

科目名：実験心理学研究演習Ⅲ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LM13307 科目ナンバリング：LIH-PSY612J 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：心理学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：応用心理学（食行動）の文献研究
2. Course Title (授業題目)：Seminars on Applied Psychology and Eating Behaviors
3. 授業の目的と概要：この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students are required to read and summarize a chapter of a textbook (about Behavioral Economics), and then to have a presentation in the class. The other students are required to attend discussions based on the presentation.
5. 学習の到達目標：① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To know how to use and apply their psychological knowledge to solve everyday problems.
2. To have a skill to present their ideas to the other students, and to discuss with them.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
最初に与えられた英語の専門書（Eating disorders and the brainあるいはHednic Eating）を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。
第1回 導入（講義の進め方／担当決め）
第2回 プレゼンテーションの方法
第3回 文献講読その1
第4回 文献講読その2
第5回 文献講読その3
第6回 文献講読その4
第7回 文献講読その5
第8回 文献講読その6
第9回 文献講読その7
第10回 文献講読その8
第11回 文献紹介その1
第12回 文献紹介その2
第13回 文献紹介その3
第14回 文献紹介その4
第15回 文献紹介その5
8. 成績評価方法：
() 筆記試験・(○) リポート[40%]・() 出席
(○) その他（発表態度）[60%]
9. 教科書および参考書：
授業時に指示する。
10. 授業時間外学習：予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
何か質問があれば、電子メール（nob_sakai@tohoku.ac.jp）で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。
この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。

科目名：実験心理学研究演習Ⅳ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LM21204 科目ナンバリング：LIH-PSY613J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：心理学研究演習Ⅵ】

1. 授業題目：Fundamentals of Psychological Measurement
2. Course Title (授業題目)：Fundamentals of Psychological Measurement
3. 授業の目的と概要：量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。英語論文の理解と執筆のために標準的な英
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class is aimed to learn the fundamentals the theory of measurement method which is the methodological basis of psychology research by quantitative methodology. The lecturer expect students' understanding will be deepened by comparing classical test theory with Item Response Theory. Although it is based on an orthodox seminar style, it is also possible to add an advanced content or a theme of the studies currently being tackled, depending on the number and attendees of students. There is also the possibility of requesting a report based on exercises in the textbook. The lecturer chose a standard English textbook for understanding and writing English papers, but we can change it depending on the student's request.
5. 学習の到達目標：心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To be able to conceive data collection designs for actually conducting research on their own using methods based on psychological measurement theory.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
 1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)
 2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10コマ)
 3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10コマ)
(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)
 4. まとめ (1コマ)
8. 成績評価方法：
出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]
9. 教科書および参考書：
 - (1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.
 - (2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.
10. 授業時間外学習：担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：社会心理学研究演習 I / Social Psychology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LM24212 科目ナンバリング：LIH-PSY614J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：心理学研究演習 IV】

1. 授業題目：犯罪・非行研究の展開

2. Course Title (授業題目)：Trends in the Study of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：本授業では、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読し、日常生活で生じる反社会的行為に関連する最新の研究知見を理解することを第一の目的とする。また、他の受講生とディスカッションをしながら、心理学の研究手法の理解を深め、その方法を修得することを第二の目的とする。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, the primary purpose is to read the literature on social psychology and criminal psychology conducted in an empirical methods and to understand the modern research findings related to antisocial behavior that occurs in everyday life. And The second purpose is to deepen the understanding of psychological research methods and to learn the methods while having discussions with other students. Students not only read designated literatures, but also prepare related materials, and present and discuss in class.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

(1) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、反社会的行為に関する心理学理論や知見への理解を深める。

(2) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、心理学の研究手法への理解を深め、最新の研究手法を修得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to acquire following points.

By reading the modern research in social psychology and criminal psychology...

1. students will deepen their understanding of psychological theories and findings on antisocial behavior.

2. students will deepen their understanding of research methods in psychology and acquire the newest research methods.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【授業の実施形態】

この科目は原則対面で授業を実施します。ただし、社会的状況によってやむを得ない場合にはオンラインで実施することもあります。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定

2. 社会心理学研究の発表・討議 (1)

3. 社会心理学研究の発表・討議 (2)

4. 社会心理学研究の発表・討議 (3)

5. 社会心理学研究の発表・討議 (4)

6. 社会心理学研究の発表・討議 (5)

7. 社会心理学研究の発表・討議 (6)

8. 中間のまとめ：社会心理学と犯罪心理学の関連

9. 犯罪心理学研究の発表・討議 (1)

10. 犯罪心理学研究の発表・討議 (2)

11. 犯罪心理学研究の発表・討議 (3)

12. 犯罪心理学研究の発表・討議 (4)

13. 犯罪心理学研究の発表・討議 (5)

14. 犯罪心理学研究の発表・討議 (6)

15. 本授業の総括と今後の展開

※初回の授業で各自の関心を尋ねるので必ず出席すること。

※初回の授業を受けて、具体的なテーマを変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

発表・討論参加 (50%)

授業時間外学習・準備 (40%)

レポート (10%)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。発表論文は、以下の雑誌に過去5年以内に収録された論文に限る。

Journal of Personality and Social Psychology

Journal of Applied Social Psychology

Journal of Social Psychology

なお、発表論文については、事前に担当教員にメールにて送付すること。他受講生の発表論文は ISTU にて事前に受講生に配布するので、各自印刷等を行うこと。

1 0. 授業時間外学習：事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

履修状況によって、授業の運営形態や発表回数が変更になることがある。初回の授業で運営形態や担当を調整するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学研究演習Ⅱ／ Social Psychology(Advanced Seminar) II

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LM15209 科目ナンバリング：LIH-PSY615J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：心理学研究演習Ⅴ】

1. 授業題目：コミュニティと文化

2. Course Title (授業題目)：Community and Culture

3. 授業の目的と概要：この授業では、コミュニティ、文化、社会行動、集合現象などに関する社会心理学の論文を読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。受講生は、課題論文を読み、小レポートを提出する。オンライン授業では課題論文の解説をおこなうとともに、小レポートの内容についてフィードバックをおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students explore articles about community and culture. In every class, students are required to submit short reports.

5. 学習の到達目標：1. コミュニティ・文化・社会行動・集合現象に関する社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。
2. 論文や文献を調べて的確に理解する力を涵養する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students learn about theories and methods of research regarding community and culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

オンラインにより授業をおこなう。

1. 導入：授業の進め方の説明
2. コミュニティの文化と変容①
3. コミュニティの文化と変容②
4. コミュニティの文化と変容③
5. 文化と問題対処行動①
6. 文化と問題対処行動②
7. 文化と問題対処行動③
8. 移動・アイデンティティ・適応行動①
9. 移動・アイデンティティ・適応行動②
10. 移動・アイデンティティ・適応行動③
11. 移動・アイデンティティ・適応行動④
12. 社会問題とアクション・リサーチ①
13. 社会問題とアクション・リサーチ②
14. 集合行動
15. まとめ

8. 成績評価方法：毎回提出する小レポートにより評価（100%）

9. 教科書および参考書：とりあげる論文を授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：とりあげる論文を精密に読解し、小レポートにまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

上に示した授業計画はおおよその予定であり、履修状況に応じて調整をすることがある。新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を変更する可能性があるため、初回ガイダンスや通知を確認するようにしてください。

科目名：心理学研究実習Ⅰ / Psychological Methodology I

曜日・講時：前期 火曜日 3講時、前期 火曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：河地 庸介（阿部・坂井・辻本・荒井・齋藤）

コード：LM12309 科目ナンバリング：LIH-PSY616J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：心理学研究実習Ⅰ】

1. 授業題目：心理学研究法

2. Course Title (授業題目)：Psychological Research Method

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得し、活用できることを目指す。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the students are required to acquire and utilize the skills essential in the psychological studies. The topics introduced in this course are described below.

5. 学習の到達目標：心理学実験・調査法などの基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得し、活用できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to acquire and utilize the knowledges and the skills essential in the psychological studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、感染状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

1. オリエンテーション
2. 研究倫理
3. 心理統計の基礎
4. 心理統計解析法
5. 文献検索・レポート作成法
6. 実験法1（基礎）
7. 実験法2（動物実験）
8. 質問紙法（作成と実施）
9. 観察法・フィールドワーク
10. 面接法
11. 質問紙法（実施後の処理）
12. 心理検査法
13. 心理検査法（WAIS-III実施）
14. コンピュータによる刺激制御法
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroomにて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。

後期の心理学研究実習Ⅱと連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：心理学研究実習Ⅱ／ Psychological Methodology II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時, 後期 火曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：河地 庸介（阿部・坂井・辻本・荒井・齋藤）

コード：LM22307 科目ナンバリング：LIH-PSY617J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：心理学研究実習Ⅱ】

1. 授業題目：心理学基礎実験

2. Course Title (授業題目)：Basic Psychological Experiment

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得し、活用できることを目指す。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the students are required to acquire and utilize the skills essential in the psychological studies. The topics introduced in this course are described below.

5. 学習の到達目標：心理学実験・調査法などの基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得し、活用できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to acquire and utilize the knowledges and the skills essential in the psychological studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、感染状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

1. オリエンテーション
2. 感情の測定（ポリグラフィー）
3. 心理物理学的測定法
4. 幾何学的錯視
5. 一対比較法
6. 感覚の尺度化
7. 反応時間
8. ゲーム理論に基づく実験
9. 信号検出理論
10. 潜在的態度の測定
11. 脳機能の計測法（NIRS）
12. 官能評価法とその応用
13. 心理学の応用1（裁判所）
14. 心理学の応用2（市場調査）
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroomにて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。

前期の心理学研究実習Ⅰと連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。